【ニュース】

2025年11月1日
ネイチャーイン大瀬館

海と森と、絵皿の呼吸

〜 作家モエパリさんの作品がつないだ誕生日の夜 〜

GINZA SIXの展示会で、私たちは二人の作家に出会いました。
壊れた景徳鎮を日本の漆でつなぐ柞磨祥子（Shoko Tamura）さんの作品には、異なる文化の技が交わることで新たな価値が生まれる「再生の美」がありました。
一方、モエパリ（moeparis）さんの作品には、自然の息吹と都市のきらめきが響き合う、生命のリズムが宿っていました。

その言葉の通り、彼女の絵皿に描かれた色の躍動『大瀬崎特産の西浦みかんのオレンジ、駿河湾の青、伊豆の山の茶』が、私たちの心を強く捉えました。

そしてその皿は、ネイチャーイン大瀬館を訪れた「大瀬崎みらいにつなぐ債」投資家ご夫妻のディナーで、奥様の誕生日を祝う器として新たな生命を得ました。

梶原料理長はその色彩から着想を得て、伊豆鹿のタタキ、深海魚メヒカリの天ぷら、甘藷チップを一皿に仕立てました。さらにお皿の向きをひっくり返すと、造形がまるで動き始めるようで、駿河湾の潮がテーブルに寄せてくるかのようでした。

五島列島から届いたGOTOJINと暖炉の灯りが添えられたその夜、アートと自然、投資と体験、作品と人の時間が静かに重なり合いました。

私たちの事業の本質は、人と自然の関係性を再設計することにあり、その原動力は『共感を起点に構造を変える力』にあります。昨晩のような出会いを、一つひとつ丁寧に積み重ねていくことこそ、私たちの歩む道です。

この思想は、ネイチャーイン大瀬館のロゴにも息づいています。
デザインを手がけた punto a punto 小山佐和子 さんは「自然と人の呼吸が交わる線」を一筆書きで描き出しました。
富士山、駿河湾、足高山、大瀬の水平線、そのつながりの中で、
かけがえのない関係を育むことを表しています。

小山さんが、環境保全と創作活動のあいだで葛藤しつつも純粋に『美しさをつくる力』を信じ続ける姿勢は、ネイチャーインの哲学と静かに呼応します。

一枚の皿がつないだ夜の物語は、自然と人、文化と経済、
そして未来への共感を、そっと照らし出してくれました。

2025年11月1日
ネイチャーイン大瀬館 石井 清彦

公式サイト： https://www.natureinn-osekan.jp
Instagram：https://www.instagram.com/osekan_natureinn